

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31 - 30	中学校	社会	社会(歴史的分野)	1 - 3年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	歴史 709	中学社会 歴史的分野		

1. 編修の基本方針

「新しい時代を担う主権者を育てる」を基本理念とし、

18歳選挙権をみすえて、生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせた学習を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現し、新しい時代の国家・社会の形成者として必要な「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを願い、本教科書を編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条の教育の目標を達成し、この基本理念を実現するために、以下の三つを編修の基本方針とし、編修にあたりました。

基本方針

1

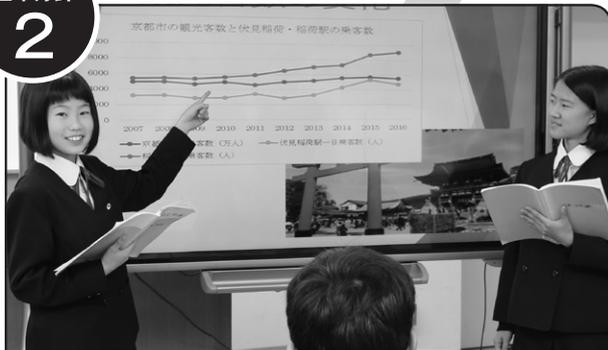


質の高い学びや授業を保證する

確実な知識・技能の定着

基本方針

2



生徒自らが学びに動き出す

主体的・対話的で深い学びを通じた
思考力・判断力・表現力の育成

基本方針

3



学びを日々の生活や
社会に活かす

学びに向かう力・人間性を養う

▶教科書全体を通して「何ができるようになるか」という資質・能力を明らかにして学習内容を構成しました。そして、生徒が歴史の大きな流れを理解し、よりよい未来の創造について考えることができるよう編修しています。

導入単元である第1編で、歴史の学習に必要な年代や時代区分のほか、「歴史的な見方・考え方」を学び、これを働かせて第2～6編で各時代の特色をとらえていきます。そして、巻末の「歴史との対話」を未来に活かす”において、よりよい未来の創造のために何が大切か、生徒が歴史をふまえて構想することができる構成にしました。

私たちは歴史から何を学び、未来に活かすことができるだろう。

●日本の歴史を学ぶ



日本は、現代まで、どのようにあゆんできたのかな。

第1編 私たちと歴史
歴史を学ぶにあたって、年代や時代区分、「歴史的な見方・考え方」を学びます。

第2～6編 各時代の学習
古代まで・中世・近世・近代・現代の各時代の特色をふまえて、日本の歴史の大きな流れを学びます。

●未来を考える

「歴史との対話」を未来に活かす
よりよい未来をつくるために何が大切か、現代の課題について、歴史をふまえて考えます。



▶基礎・基本を大切に、「何を学び」「どのように学ぶのか」のポイントをおさえた紙面構成にしており、生徒が知識・技能を着実に身につけることができるよう編修しています。

本文は1授業時間を見開き2ページとすることを原則とし、この1時間で何を学ぶのか、どのような視点や方法に着目して学習を進めるのかを、「学習課題」と「見方・考え方」で明確に示しました。また、学習課題の理解を深める問いである「深めよう」を示したほか、右ページの側注欄には「確認」コーナーを設け、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる学習活動を提示しました。

本文ページの使い方

導入資料

見開き内容の導入になる資料と、それに関する問いかけを設けています。



この見開きで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めていきます。



学習課題に対応し、見開きの学習の理解を確かにする問いを示しています。学習の最後に取り組むことができます。

見方・考え方

学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。

基本用語

歴史の理解に役立つ用語の解説をしています。(教科書P.5に一覧を掲載)

小年表

この見開きのできごとが、いつ、どのような順番で起こったのかを確認することができます。

深めよう

学習課題の理解を深めるため、「見方・考え方」を働かせたりする問いを示しています。

時代・世紀の表示

学習している時代や世紀を、前後の時代も含めて常に確認することができます。

本文

十分な文字量を確保し、平易な表現を用いて、歴史の流れや因果関係を丁寧に説明しています。また、一つの文章の長さを適切なものにし、ふりがなも重要語句(太字)には全てふるなど、生徒の読み取りを支援するようにしました。



歴史学習を進めるにあたって必要な技能を解説しています。(教科書P.5に一覧を掲載)

小学校

連携コーナー
小学校の学習や地理・公民とのつながりを示しています。

▶学習内容の構造化と焦点化を図り、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して、「時代の特色」をとらえることができるように編修しています。

「時代の特色」をとらえる第2～6編では、生徒が導入ページで見通しをもち、「見方・考え方」を働かせながら考察を進め、ふり返りの場面であるまとめページで、学びの成果や自己の成長を確認することができるように単元を構成しました。

見通す

■導入ページ

この時代の学習で何ができるようにになればいいのか、めあてを明らかにします。また、世界地図や年表を使って時代を概観することができます。

▶第3編 P.64-65



資料の読み取りから導き出された「めあて」

前後の時代を比較できる資料を配置

時間軸と空間軸で時代を概観

▶第4編 P.110-111

考察する(本文)

■本文ページ

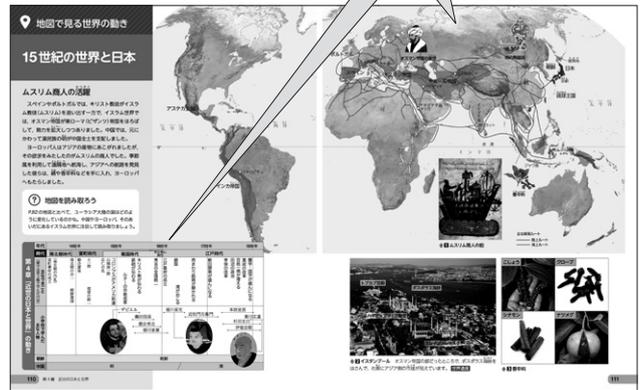
歴史の学習の中心となり、適切な「問い」である学習課題を、「見方・考え方」を働かせて考察し、解決していきます。

学習課題 源頼朝がつくった政治のしくみには、どのような特徴があるのでしょうか。

見方・考え方 つながり

源頼朝と御家人との関係に着目しましょう。

▶第3編 P.72-73



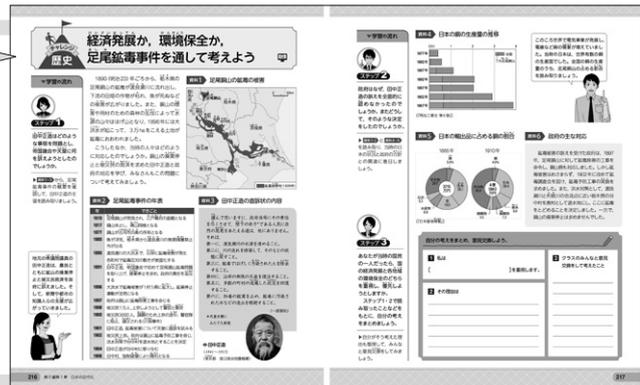
考察する(特設)

■チャレンジ歴史

資料をもとに、歴史について自分で考えたり、対話したりして、歴史を学ぶ面白さを体験できる特設ページです。資料の読み取りから、生徒に選択・判断させるもので、発達の段階を考慮し、多様な資質・能力を育む課題学習を示しました。(教科書 P.5 に一覧を掲載)

▶第5編第1章 P.216-217

選択・判断の学習例



ふりかえる

■まとめページ 学習の整理と活用

年表と地図を使って学習のふり返りができるようにしました。また、アクティビティとして、習得した知識を関連させて時代の特色をとらえる課題学習を示しました。各時代で見通しからふり返りまでの構成をくり返すことで、日本の歴史の大きな流れをつかめるようにしました。(教科書 P.5 にアクティビティの一覧を掲載)

アクティビティ

▶「法」に着目して、中世の特色にせまろう

各時代に定められたきまりや法をみると、政治や社会など、それぞれの時代の特色を知ることができます。ここでは、中世に定められた主な「法」に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を覚えていきましょう。

時代	制定された主な法	法の目的	目的
古代	十七条の誓約		
中世	天竺律令		
近世	徳川幕府の法		

なぜ、これらの法はつくられたのでしょうか。

学びの成果と自己の成長を確認

▶第3編 P.104-105

▶「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、歴史の学習の最後に、よりよい未来を構想する教材を設定し、新しい時代を築く社会の参画者を育てるように編修しています。

「歴史との対話」を未来に活かす

(P.298-305)

現代の諸課題のふり返りに活用できるテーマ別さくいんを設け、災害・政治参加・世界平和について考える課題学習を示しました。

課題例① 災害の歴史に学ぶ

2011年3月11日発生した東日本大震災は、東日本の太平洋沖に発生した大規模な地震、津波、原発事故を伴った未曾有の大災害であり、多くの犠牲者を出した。震災から10年が経ち、被災地の復興が進んでいるが、震災の教訓を未来に伝えることが重要である。

学習のねらい 震災の歴史を学び、防災意識を高め、未来に伝えること。

学習の過程 1. 震災の歴史を学ぶ 2. 震災の教訓を学ぶ 3. 未来に伝えること

学習の成果 震災の歴史を学び、防災意識を高め、未来に伝えることができる。

▶P.300-301 災害の歴史に学ぶ

課題例② 政治参加の歴史に学ぶ

2016年総選挙から、これまで以上に選挙の重要性が認識され、選挙参加の意識が高まっています。政治参加の歴史を学び、政治参加の重要性を認識し、政治参加の意識を高めます。

学習のねらい 政治参加の歴史を学び、政治参加の重要性を認識すること。

学習の過程 1. 政治参加の歴史を学ぶ 2. 政治参加の重要性を認識すること

学習の成果 政治参加の歴史を学び、政治参加の重要性を認識することができる。

▶P.302-303 政治参加の歴史に学ぶ

公民的分野の学習に向けて

政治元 日本国憲法の三つの基本原則の一つである国民主権、議会制民主主義の意義を学びましょう。

民主政治をよりよく運営していくために、どのようなことが必要か学びましょう。

公民的分野の学習へ向けた課題意識をもつことができようになっています。

▶地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページを豊富に設けています。

先人に学ぶ

生活の向上や文化の発展、平和などに取り組んだ先人を紹介しています。(教科書 P.5 に一覧を掲載)

歴史を掘り下げる

歴史を掘り下げる

日本の神話やオリンピック・パラリンピックの歴史のほか、文化財の保存修理の仕事など、歴史の学習をはば広く豊かにするテーマを取り上げ、くわしく解説しています。

私たちにできること-震災の教訓を未来に伝える-

先人の防災・減災に関する知恵を学び、今後のそなえを検討する際の大切な情報の一つに、津波被害などを刻んだ石碑があります。

宮城県女川町は、東日本大震災によって、死者・行方不明者が800人を超えるなど、甚大な被害を出しました。その女川町に、「1千年後の命を守るために」自分たちに何ができるかを考え、活動した中学生がいます。

2011(平成23)年に入学した生徒が、震災の記録を残す活動の一つとして、町内に21か所ある浜の津波到達地点に石碑を建てる計画を進め、2013年11月に最初の石碑を完成させました。石碑には、これから生まれてくる人たちに、自分たちと同じ苦しみや悲しみを経験してほしくない、という思いから、大地震が来たらこの碑より高いところに出よう、と、いけない人がいたら無理にでも連れ出すことなどの、生徒が考えたメッセージが刻まれています。

過去の災害に学ぶとともに、自分たちの経験を教訓として、未来の世代に積極的に伝えようとする若い世代が育っています。

防災

宮城県女川町の石碑(2013年) 宮城県内の石材店の協力や募金によって実現した石碑です。

▶P.291 私たちにできること-震災の教訓を未来に伝える-

文化財を守り伝える仕事

文化財を守り伝える仕事

文化財を守り伝える仕事

文化財を守り伝える仕事

▶P.58-59 文化財を守り伝える仕事

地域に学ぶ

身近な地域から歴史を学ぶことのできる多様な事例を紹介しています。(教科書 P.5 に一覧を掲載)

地域調べ

地域調べ

地域調べ

致道博物館(山形県鶴岡市)

館長の酒井さんの話 城下町鶴岡の致道博物館は鶴ヶ岡三の丸にあります。庄内藩は徳川四天王の一人である酒井忠次に由来し、3代庄内藩主酒井忠尚が1622年に鶴岡へ入り、以来酒井家が治めました。博物館は、1950(昭和25)年、16代藩主が郷土文化向上のため、旧藩政致道館の資料および土地建物を寄付して発足しました。そして、貴重な建物保存や美術・歴史・民俗・考古資料など多分野にわたって発信しています。博物館名は、藩政名にちなみ、論語の「君子学んで以てその道を致す」が典拠で、致道館精神「人は天竺」を受けついでいます。

酒井 隆雄 館長

庄内藩内藩の藩政致道館(上)と致道博物館に保存されている明治時代に建てられた旧庄内藩邸(下)

▶P.144 致道博物館(山形県鶴岡市)

富岡製糸場を調べる

富岡製糸場を調べる

富岡製糸場を調べる

富岡製糸場を調べる

▶P.185 富岡製糸場を調べる-群馬県富岡市-

2. 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ●「探してみよう！私たちと歴史とのつながり」では、現代に残された行事や衣・食・住が、過去の歴史とどのように結びついているのか、興味・関心を喚起する問いかけを提示し、学習意欲を高めることができるよう配慮しました。(第1号, 第5号) 	P. II～III
第1編 私たちと歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校での学びをふり返る具体的な学習活動の事例を通して、「歴史的な見方・考え方」を働かせた歴史の学び方をわかりやすく解説するとともに、生徒が中学校の歴史学習の特色を理解しながら各時代の学習に取り組んでいけるよう配慮しました。(第1号) 	P.6～13
第2編 古代までの日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ●古代ギリシャ・ローマの民主政や共和政を学び、主権者として民主政治の来歴を理解できるよう配慮しました。(第3号) ●神話について取り上げ、我が国と郷土を愛する心情を育めるようにしました。(第5号) 	P.14～63
第3編 中世の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ●商業をはじめ、産業が発達していく過程をとらえ、その後民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを通して、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮しました。(第2号) ●祇園祭や盆踊りなど、現代に伝わる行事が生まれたことを理解し、我が国と郷土を愛する心情を育めるよう配慮しました。(第5号) 	P.64～105
第4編 近世の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ●町人文化が発展し、その過程で人形浄瑠璃や歌舞伎などの現代に伝わる芸能が生まれたことを理解することで、我が国の伝統文化を愛する心情を育めるよう配慮しました。(第5号) ●幕府のはげ山対策や、江戸の町のリサイクルについて取り上げ、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第4号) 	P.106～157
第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ●近代化のために活躍した人物のエピソードを取り上げ、社会の形成に主体的に参画することに寄与する態度を養えるよう配慮しました。また、国内の産業の発展と、環境破壊の問題を結びつけて考えさせることで、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第3～5号) 	P.158～219
第5編 近代の日本と世界 第2章 二度の世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ●差別からの解放を求める運動について取り上げ、人権を尊重することの大切さを学ぶことができるよう配慮しました。(第3号) ●二度の世界大戦を通じて、戦争の悲惨さや命の尊さを学び、国際平和について考えることができるよう配慮しました。(第4号) 	P.220～259
第6編 現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ●戦後、日本が国際社会に復帰し、高度経済成長をとげ、世界のなかで重要な役割を担うようになったことを理解できるよう配慮しました。また、主権や領土に関する学習を充実させました。(第1号, 第5号) 	P.260～297
「歴史との対話」を 未来に活かす	<ul style="list-style-type: none"> ●現代の諸課題について、それが起こった歴史的な背景や課題に対する先人たちの取り組みを知り、よりよい未来をつくるための行動を考えられるよう配慮しました。(第1号～第5号) 	P.298～305

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての生徒が等しく学べるよう、ふりがなを全て読みやすいゴシック体にしたほか、図版の配色や体裁にいたるまで、ユニバーサルデザインに配慮した編修を行いました。
防災・安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●近年、多発する自然災害に対する防災・減災への備えを、先人たちの取り組みをふまえて考えることができるようにしました。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●デジタルマーク  を付けた箇所では、ICTを活用して学習を深めることができるよう、弊社 Web ページにコンテンツを用意しました。
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の「主として集団や社会との関わりに関すること」のなかでも「社会参画, 公共の精神」「国際理解, 国際貢献」等については、先人に学ぶことができる内容を各所で取り扱いました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号 31 - 30	学校 中学校	教科 社会	種目 社会(歴史的分野)	学年 1 - 3年
※発行者の番号・略称 116 日文	※教科書の記号・番号 歴史 709	※教科書名 中学社会 歴史的分野		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

新しい時代を担う主権者を育てる教科書

生徒の確かな成長と人間尊重・平和な社会の実現を願い、我が国の歴史を、広い視野に立って歴史的な見方・考え方を働かせて学び、「**公民としての資質・能力の基礎**」を育成することをめざして編修しました。また、歴史の学びが未来を担う生徒たちの糧となり、自らの将来や、よりよい未来の創造に活かすことができる内容をめざしました。

特色 1 学習指導要領の改訂への対応

① 「歴史的な見方・考え方」をわかりやすく解説

第1編「私たちと歴史」で、小学校の歴史学習をふり返りながら、「**歴史的な見方・考え方**」を学ぶことができる構成にしました。また、巻頭見返りで「私たちと歴史とのつながり」の例を紹介し、歴史と現在とのつながりを生徒が意識できるようにしました。

➡ P12-13
「歴史的な見方・考え方」とは?



② 世界の歴史の扱いの充実

各編・章の導入ページの世界地図のほか、本文ページでも日本に影響をあたえた世界の歴史を必要に応じて充実させ、広い視野から日本の歴史を理解できるようにしました。

元の襲来をユーラシアの変化の中でとらえる



➡ P82-83
元の襲来と鎌倉幕府

③ 民主政治や人権思想の学習の充実

主権者の育成という観点から、古代から現代までの民主政治に関わる歴史はもちろん、それをふまえて現代の政治参加について考えることができる課題学習を、巻末に設けました。(P.24-25, 164-165, 302-303 など)

④ 様々な伝統や文化の学習内容の充実

各時代の文化はもとより、「琉球の文化」や「アイヌの文化」に関する教材をいっそう充実させました。



➡ P92-93



➡ P132-133

特色2 歴史の楽しさ・面白さを体験し、確実に学ぶための工夫

① 時代像を具体的にイメージできる図版を、大きく・豊富に掲載

大判紙面を生かした、ビジュアルで多彩な図版による楽しい学びで本文の理解を助け、知識が定着できるようにしました。

▶ P.106-107 「第4編 近世の日本と世界」導入ページ

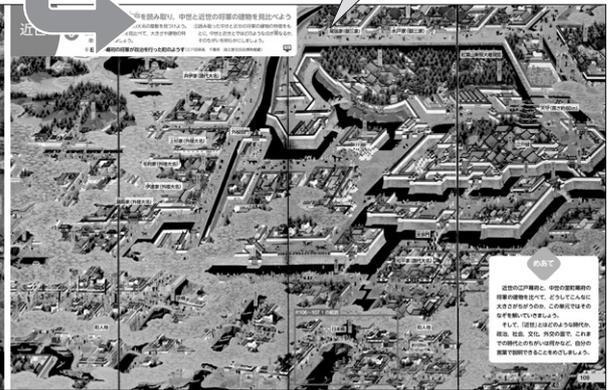


絵画資料を読み取る楽しさの体験

実物大で掲載した江戸図屏風を読み取る活動

洛中洛外図屏風と江戸図屏風を折り込みを開いて見比べる活動

▶ P.108-109 「第4編」導入ページ



各時代の文化史はビジュアルなページを増やし、文化財を大きく豊富に掲載しました。また、図版に「資料活用」コーナーを添えて、資料活用能力の向上を図るようにしました。



▶ P.78-79 鎌倉時代の文化と仏教

② ICT を活用した学習の支援



▶ 発掘された「天地返し」を行った復旧溝群 (群馬県玉村町 下之宮中沖遺跡)

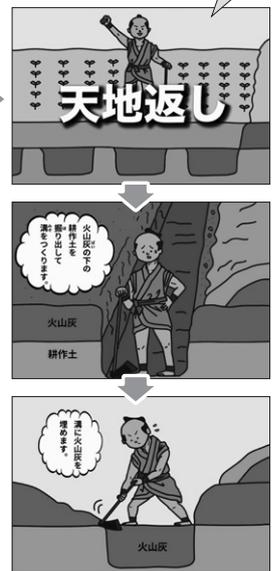
▶ P.149 「天地返し」

教科書の理解を助けるスライドや動画教材のほか、ワークシートなどのコンテンツを弊社 web ページにて公開しています。

該当するページでは、紙面上にデジタルマーク  を掲載しています。

(P.8, 149, 250 など)

コンテンツ例



③ 生徒が歴史について考え、判断し、表現する学習の重視

考古資料の読み取りから選択・判断させる学習まで、歴史を学ぶ面白さを体験できるチャレンジ歴史と時代の特色を考えることができるアクティビティという二つの特設ページは、生徒の発達の段階に配慮し、多様な資質・能力を育むことができます。(教科書 P.5 に一覧を掲載)

▶ P.34-36 チャレンジ歴史



特色3 よりよい未来の創造に活かすことができる豊かな教材

①現代的な諸課題の歴史的な背景や先人に学ぶことの重視

現代的な諸課題の歴史的な背景を詳しく解説するほか、課題解決に取り組んだ先人の姿を紹介し、よりよい未来の創造について、生徒が歴史をふまえて考えることができるようにしました。

災害

近年の災害について学ぶとともに、**防災・減災**に対する先人の取り組みをふまえ、災害に強い社会の実現を考えることができる課題学習を示しました。

(P.149, 300-301 など)



↑P.300-301 災害の歴史に学ぶ

女性史コラム

古代から現代まで、各時代の女性の姿を紹介するコラムを設け、**男女共同参画社会の実現**に向けて、男女平等の意義などについて考えることができるようにしました。

(P.56, 77, 95, 135, 213, 233, 266, 283)



↑P.233

近隣諸国との関係など

●領土に関する記述

我が国の固有の領土である北方領土や竹島に未解決の問題が残されていること、尖閣諸島は一度も外国の領土になったことがない日本固有の領土であることなどをわかりやすく解説しました。



↑P.292-293 冷戦終結後の近隣諸国との関係

●前近代の国際秩序

現代とは異なる国際秩序をわかりやすく解説し、現代の課題を広い視野からとらえることができるようにしました。

▶P.37 朝貢・冊封とは何か



平和の祭典・近代オリンピック

東京2020オリンピック・パラリンピックをきっかけに、近代オリンピックの理念や日本の関わりを学べるようにしました。



↑P.280-281 オリンピック・パラリンピックの歴史

中学生へのメッセージ

歴史に学ぶことの大切さなど、新しい時代を担っていく中学生に宛てた文章を、歴史学習の最後の本文に記しました。

歴史から未来へ 急速な変化をとげてきた現代社会ですが、21世紀になって、その変化の方向は見えにくくなっています。そのような時代だからこそ、歴史に学ぶことは重要です。例えば、戦争や公害、差別問題に関する歴史は、どのような時代になろうとも、大切な価値や教訓を教えてください。有名・無名を問わず、それぞれの時代を生きてきた人々から、次の時代をつくってきたことも、歴史が教えてください。現在の私たちの行動もまた、未来をつくっていくのです。歴史に学び、現在を生きて、未来を切り拓いていく。そんなみなさんの活躍を願っています。

▶P.291

②現代的な諸課題を考えることができる主な教材

主な観点	主な内容
人権	女性 (P.56, 77, 95, 135, 213, 233, 266, 283), 河原者がつくり出した文化 (P.99), 豊かになる人々と身分制のひきしめ (P.147), 新しい世の中をめざした人々 (P.178-179) など
環境, エネルギー・資源	幕府のはげ山対策と都市に住む人々のリサイクル (P.154-155), 足尾鉍毒事件 (P.213, 216-217), 公害克服の歴史を調べる (P.294-295) など
平和・命の尊さ	雨森芳洲 (P.131), 孫文と梅屋庄吉 (P.209), エルトゥールル号遭難事件 (P.215), 「命のビザ」を発給した杉原千畝 (P.247), 大阪の空襲を調べる (P.256-257), 核兵器廃絶と平和への願い (P.275), 沖縄の基地問題 (P.276), 世界平和への取り組みに学ぶ (P.304-305) など
防災・減災	天明のききんと復興 (P.149), 関東大震災 (P.235), 阪神・淡路大震災 (P.289), 東日本大震災 (P.289), 震災の教訓を未来に伝える (P.291), 災害の歴史に学ぶ (P.300-301) など
伝統と文化	探してみよう! 私たちと歴史とのつながり (P. II-III), 仏像の見方 (P.57), 文化財を守り伝える仕事 (P.58-59), 茶の湯を支える茶釜の生産地 (P.100), 岡倉天心とフェノロサ (P.189), 山本作兵衛の炭坑記録画 (P.211), 近代化産業遺産を訪ねる (P.237), 文化財の種類 (P. VI) など

本教科書の特色表

基本事項	準拠性	教育基本法の遵守	・教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するため、同条第1項から第5項に示されるような人格の育成をめざした教科書としました。
		学習指導要領の遵守	・学習指導要領の社会科の目標、各分野の目標・内容・内容の取扱いをふまえた適切な教材を選択した単元構成としました。
	公正性	・教材の選定、記述にあたっては、一面的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分に吟味、検証しました。	
	正確性	・検定基準に照らして正確な内容、表記・表現であることを検証し、最新の資料を選択しました。	
内容・系統性	発達の段階への配慮 (小・中・高連携)		・生徒の発達の段階を考慮した内容とし、小学校の学習の振り返り(第1編「私たちと歴史」など)や、地理・公民の学習との分野間連携に配慮しました。
	配列・分量		・配列は、第1編「私たちと歴史」、第2編「古代までの日本と世界」、第3編「中世の日本と世界」、第4編「近世の日本と世界」、第5編第1章「日本の近代化」、第5編第2章「二度の世界大戦と日本」、第6編「現代の日本と世界」で構成し、115時間の授業時数で完結できるよう各編の内容を吟味しました。 ・教科書の中心となる本文は、見開き2ページを1授業時間とすることを原則とし、①導入資料→②「学習課題」→③「見方・考え方」→④「深めよう」→⑤「確認」を基本構造とし、この流れをくり返し学習することによって、基礎・基本の確かな定着と思考力、判断力、表現力を育成することができるように構成しました。
	主体的・対話的で深い学びの実現		・第2編～第5編第2章までの各編の一つずつ、資料をもとに生徒が歴史について自分で考えたり、対話をしたりして、歴史を学ぶ面白さを体験できる「チャレンジ歴史」を設置しました。編(章)末には、各時代の特色をとらえるための具体的な活動事例を提示した「アクティビティ」を設置しました。 ・4人の生徒と2人の先生が様々な場面で登場し、疑問や感想、提案等の発言を通して、学習者である生徒が同じ目線で感じたり、疑問をもったりできるように工夫しました。
	社会に開かれた教育課程・カリキュラムマネジメントの実現		・「でかけよう!地域調べ」「地域に学ぶ」などの特設ページ・コラムを各所に設置し、社会とのつながりについて関心・意欲をもって学習できるように配慮しました。 ・他教科との関連では、道徳科の教育目標に基づき、命の尊さや伝統・文化などをテーマに据えた各種の特設ページ・コラム(「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」など)を設置して、内容の充実を図りました。
	重点課題	現代的・社会的課題への対応	・『歴史との対話』を未来に活かす」「先人に学ぶ」などの特設ページ・コラムを設置し、現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災・減災への先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて、生徒が歴史をふまえて考えることができるように工夫しました。
		伝統文化の尊重と国際理解	・日本の伝統と文化を理解し、我が国や郷土を愛する心情を育むとともに、多様な文化から多文化共生社会の大切さを知り、国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるよう配慮しました。 ・「東京2020オリンピック・パラリンピック」及び2025年に開催予定の「大阪・関西万博」を取り上げ、それらの歴史を学ぶことで、国際理解・親善への生徒の興味・関心を促すように工夫しました。
社会の持続可能な発展		・第6編3節「グローバル化と日本の課題」において、人権、環境、平和、防災・減災などの課題を取り上げ、社会の持続可能な発展に向けて、生徒が自分の考えをもって学習に取り組めるよう配慮しました。	
その他	家庭学習への配慮		・見開きに「学習課題」「見方・考え方」「深めよう」「確認」を設置し、生徒が家庭にいる時でも学習しやすいように配慮しました。また、編(章)末の「学習の整理と活用」では復習に適した問題を設けています。
	地域・社会への関心		・「でかけよう!地域調べ」「地域に学ぶ」などの特設ページ・コラムを設置し、生徒が身近な地域の歴史に対して興味・関心を高められるように工夫しました。
	デジタル教材の活用		・学習を深めるデジタル教材を弊社 Web ページに用意しました。
	特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮		・文字はユニバーサルデザインに配慮したフォント、ふりがなも判読しやすいゴシック体を使用しました。グラフ・地図等の図版は、CUDに配慮した配色や処理を施しています。
	判型		・AB判を採用し、写真等の図版を大きく示して、生徒の興味・関心をひきやすくし、左右のスペースにグラフや各種資料を掲載して本文内容の補完の充実を図りました。
	印刷・製本		・印刷は植物油インキを使用、本文用紙も再生紙を使用して環境に配慮しました。 ・十分な強度をもち、軽くて裏写りが少ない特徴はそのままに、前回(平成28年度版)の教科書と比較して約5%軽い用紙を使用して、教科書の軽量化を図りました。 ・製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、開きやすくしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1編 私たちと歴史 ※「探してみよう！私たちと歴史とのつながり」「歴史を学ぶにあたって」を含む	A～C	P.Ⅱ～Ⅳ P.6～13	6
第2編 古代までの日本と世界	B(1)	P.14～63	18
導入／地図で見る世界の動き	B(1)	P.14～17	(1)
1 人類の始まりと文明	B(1)	P.18～27	(5)
2 日本列島の人々と国家の形成 ※チャレンジ歴史を含む	B(1)	P.28～43	(7)
3 古代国家の展開	B(1)	P.44～61	(4)
とらえよう！「古代までの日本と世界」の特色	B(1)	P.62～63	(1)
第3編 中世の日本と世界	B(2)	P.64～105	14
導入／地図で見る世界の動き	B(2)	P.64～67	(1)
1 古代から中世へ	B(2)	P.68～71	(2)
2 鎌倉幕府の成立 ※チャレンジ歴史を含む	B(2)	P.72～87	(5)
3 室町幕府と下剋上	B(2)	P.88～103	(5)
とらえよう！「中世の日本と世界」の特色	B(2)	P.104～105	(1)
第4編 近世の日本と世界	B(3)	P.106～157	18
導入／地図で見る世界の動き	B(3)	P.106～111	(1)
1 中世から近世へ	B(3)	P.112～125	(6)
2 江戸幕府の成立と東アジア ※チャレンジ歴史を含む	B(3)	P.126～137	(5)
3 産業の発達と元禄文化	B(3)	P.138～145	(2)
4 幕府政治の改革と農村の変化	B(3)	P.146～155	(3)
とらえよう！「近世の日本と世界」の特色	B(3)	P.156～157	(1)
第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化	C(1)	P.158～219	26
導入／地図で見る世界の動き	C(1)	P.158～161	(1)
1 欧米の発展とアジアの植民地化	C(1)	P.162～171	(5)
2 近世から近代へ	C(1)	P.172～179	(3)
3 近代国家へのあゆみ	C(1)	P.180～193	(5)
4 立憲制国家の成立	C(1)	P.194～201	(4)
5 日清・日露の戦争と東アジアの動き	C(1)	P.202～209	(4)
6 近代の日本の社会と文化 ※チャレンジ歴史を含む	C(1)	P.210～217	(3)
とらえよう！「日本の近代化」の特色	C(1)	P.218～219	(1)
第5編 近代の日本と世界 第2章 二度の世界大戦と日本	C(1)	P.220～259	17
導入／地図で見る世界の動き	C(1)	P.220～223	(1)
1 第一次世界大戦と戦後の世界	C(1)	P.224～229	(3)
2 大正デモクラシーの時代	C(1)	P.230～237	(3)
3 世界恐慌と日本	C(1)	P.238～245	(4)
4 第二次世界大戦と日本 ※チャレンジ歴史を含む	C(1)	P.246～257	(5)
とらえよう！「二度の世界大戦と日本」の特色	C(1)	P.258～259	(1)
第6編 現代の日本と世界	C(2)	P.260～297	14
導入／地図で見る世界の動き	C(2)	P.260～263	(1)
1 平和と民主化	C(2)	P.264～273	(5)
2 冷戦下の世界と経済大国化する日本	C(2)	P.274～285	(4)
3 グローバル化と日本の課題	C(2)	P.286～295	(3)
とらえよう！「現代の日本と世界」の特色	C(2)	P.296～297	(1)
「歴史との対話」を未来に活かす	C(2)	P.298～305	2
	(※予備時間：20時間)	合計	115

※「チャレンジ歴史」には、1時間を配当しています。

※予備時間は、学校や生徒の実態に即して弾力的に扱っていただくための時間です。

※第2～6編に設定した「でかけよう！地域調べ」(6時間配当)は、この予備時間を利用して実施することを想定しています。